

第VI部

その他の城郭と居館跡



高城跡



所在地
旧旭市

こしあしめつ

西足洗集落の徴高地上に位置する。戦前までは土塁も残されていたという。平成4年に宅地造成により発掘調査が行われたが、城郭の遺構は発見されなかった(『高城跡』1491年 東総文化財センター)。

城主については不明だが、千葉氏一族の居館と考えられている。



高城跡(西から)



後藤城跡



所在地・旧旭市

足川集落の低地に位置する。別名後藤館ともいう。城の規模は、南北70m、東西70mの小規模な城で、県道が城跡を南北に貫通しているため、城跡は東西二つに分かれている。西側は宅地のため遺構は消滅している。東側には、城の一角にあつたという日月神社が祀られている。日月神社は文治元年(1185)勸請で、千葉氏との関係が考えられている。

本殿背後に土塁が残るが、城の遺構ではなく、神社に伴うものである。唯一、浅い空堀が残されているという。



後藤城跡(南から)



所在地

旧千潟町

旧樺海北側の丘陵上が城跡で、別名高根城ともいう。土塁で区画された曲輪が三つ確認できるが、面積も狭く、居住性に乏しい空間であり、臨時に築城されたものである。

城主の居館は山麓部に構えられたものと考えられる。

伝承では、鏑木城の支城と伝えられ、城主は鏑木氏の家臣高根十郎左衛門であり、永禄6年（1563）の高根氏に宛てた文書が現存している。



丈山城跡（西から）



所在地

旧千潟町

鏑木城跡の西方約1kmの独立丘陵上に位置する。西側の道を挟んだ対岸の山が高根城跡である。

城の規模は、南北450m、東西200mもあり、かなり広い城跡であるが、土塁や空堀もなく、広大な城を区画した遺構もなく、曲輪については不明である。北方に、高さ1.5m程の土壇どたが残るのみである。

伝承によれば、鏑木城の支城として、鏑木氏が領有した城といわれている。



椎木台城跡（南から）